

ばこうきねんひ 馬耕記念碑

分類：有形文化財

町選定文化財

荃永地区

町選定文化財

馬耕記念碑

この記念碑は、馬耕の発展に尽力をつくした先生方の功績をたたえ、また馬耕の歴史を後世に伝えるため大正3年3月、荃永の人々により建立されました。

種子島で最初に馬耕が始まったのが荃永です。明治19年、熊本から招かれた春木敬太郎氏と三木彦四郎氏の両農業技師の指導によって始められました。馬耕は馬に鋤を引かせ田畑を耕すもので、馬の訓練がとても重要で、馬を自由自在に使いこなせるようになるまでには3ヵ月～半年ほどかかったといえます。

人々の長年の努力により、島内で馬耕は次第に普及し、水稻栽培は大きく改善されました。馬耕導入前は、牛に鋤を引かせる方法（牛耕）で、牛は作業が遅く、時間がかかっていました。牛耕の前は、ホイトウ（放踏）といって、牧に放牧している馬を数頭、水を引いた田んぼに放して踏ませ、やわらかくするといった方法でした。

さて、馬耕が年々盛んになると、その早さや技術（深耕度と低盤の技量）を競う馬耕競犁会（馬耕試験）が毎年開催されるようになりました。第1回開催は明治38年、その後昭和35年まで、島内3市町でそれぞれ開催されました。特に昭和18年頃が最も盛んで、郡・県大会も盛んに行われていたようです。



馬耕記念碑（荃永総合研修センター前）



馬耕風景